

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
専門学校 岡山情報ビジネス学院	昭和61年7月26日	学院長 三村 光	〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町1-4 (電話)086-224-2336																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人 三友学園	昭和61年7月26日	理事長 野津 基弘	〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町1-4 (電話)086-224-2336																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
工業	工業専門課程	情報スペシャリスト学科	平成7年1月23日 文部科学省告示	—																							
学科の目的	日々進化する情報処理業界で活躍するために必要となる、実践的かつ専門的なチームでのシステム開発における知識やプログラミング、技術力、専門力を証明する高資格の取得をめざす。また、企業や組織での業務知識を学び、ヒューマンスキルの高い上級システムエンジニアを育成する。																										
認定年月日	平成28年2月19日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
3年	昼間	2,634	1,382	814	648	0	0																				
2844時間																											
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
75人	142人	0人	4人	3人	7人																						
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～翌年3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価はS、A、B、C、Dの4段階科目 終了時に試験、レポート等で評価																						
長期休み	■夏季休業日:8月9日～8月28日 ■冬季休業日:12月19日～翌年1月12日 ■春季休業日:2月6日～3月13日			卒業・進級条件	①必修の全科目及び選択必修で選択した科目の成績がC評価以上 ②すべての授業の出席率90%以上 ③サーティファイ 情報処理検定2級、 サーティファイ C言語検定2級、 サーティファイ Java検定2級のうち1つに合格 上記条件を全て満たした学生に対して卒業を認定する																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話連絡、保護者面談、家庭訪問等			課外活動	■課外活動の種類 新入生歓迎会、スポーツ大会、学園祭、東京研修  ■サークル活動: 有																						
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) (株)ラック、Sansan(株)、(株)テラスカイ、アララ(株)、JTP(株)、セブテーニグループ(株)FLINTERS、パイブドHD(株)、セリオ(株)、三井E&Sシステム技研(株)、(株)システムズナカシマ、(株)トスコ、OEC(株)、ピープルソフトウェア(株)、(株)岡山トヨタシステムサービス、(株)システムエンタープライズ、(株)ソフィア、(株)アルク、東和ハイシステム(株)、エクシードシステム(株)、(株)クロスパワー、(株)テクノデジタル、(株)タイレルシステムズ、サービス&セキュリティ(株)、ジェイエムテクノロジー(株)、(株)ティファナ・ドットコム、東京製鐵(株)、小松開発工業(株) 他  ■就職指導内容 担任教師とキャリアサポート室が連携し学生の進路選択のサポートを行う。併せて就職対策講座により教養・面接対策等を行う。  ■卒業生数 : 38 人 ■就職希望者数 : 36 人 ■就職者数 : 36 人 ■就職率 : 100.0% % ■卒業生に占める就職者の割合 : 94.7% %  ■その他 ・進学者数: 0人  (令和3年度卒業生に関する 令和4年6月1日 時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																						
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>③</td> <td>38人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>情報処理技術者能力認定試験2級</td> <td>③</td> <td>38人</td> <td>31人</td> </tr> <tr> <td>C言語プログラミング能力認定試験2級</td> <td>③</td> <td>38人</td> <td>29人</td> </tr> <tr> <td>Javaプログラミング能力認定試験2級</td> <td>③</td> <td>38人</td> <td>32人</td> </tr> </tbody> </table>								資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	③	38人	18人	情報処理技術者能力認定試験2級	③	38人	31人	C言語プログラミング能力認定試験2級	③	38人	29人	Javaプログラミング能力認定試験2級	③	38人	32人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
基本情報技術者試験	③	38人	18人																								
情報処理技術者能力認定試験2級	③	38人	31人																								
C言語プログラミング能力認定試験2級	③	38人	29人																								
Javaプログラミング能力認定試験2級	③	38人	32人																								
中途退学の現状	<b>■中途退学者 6名 ■中退率 4.3%</b> 令和3年4月1日時点において、在学者138名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者132名(令和4年3月31日卒業生を含む) <b>■中途退学の主な理由</b> 健康上の理由、進路変更のため  <b>■中退防止・中退者支援のための取組</b> 定期ガイダンスの実施、クラス行事・学校行事への参加、家庭との連携等																										
経済的支援制度	<b>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有・無</b> ・OIC特別奨学金制度(本校入学者を対象に実施) ・後期授業料免除制度(本校入学後、所定の条件を満たす者を対象に実施) <b>■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象</b> ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	<b>■民間の評価機関等から第三者評価: 有・無</b> ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) <a href="https://www.oic-ok.ac.jp/assets/document/about/2019.pdf">https://www.oic-ok.ac.jp/assets/document/about/2019.pdf</a>																										
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.oic-ok.ac.jp/course/information_specialist/">URL https://www.oic-ok.ac.jp/course/information_specialist/</a>																										

※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。  
 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの  
 ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの  
 ③その他(民間検定等)

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

IT技術者として、ユーザーが求めるシステムを構築するために、高い技術力と豊かなコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目指す。そのために、システム化に向けた動向やシステム開発技術についての知見のある方々に教育課程編成委員を依頼し、システム業界を中心に、ソフトウェア開発における実状と求められるスキル等について意見や提案をいただき、カリキュラム・授業計画等に反映させる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

高度なIT技術者(ネットワーク技術者、情報セキュリティ技術者、データベース技術者)育成のために、システム業界関係者および岡山情報ビジネス学院関係者で構成された「教育課程編成委員会」を岡山情報ビジネス学院内に設置する。年間2回以上開催される委員会にて教育課程の編成に向けた意見・助言等を受けカリキュラム等の開設・改善・工夫等を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
鈴木 敦夫	NPO法人/オープンテクノロジー技術者認定機関 LPI-Japan 理事長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	①
須藤 尚慶	アララ株式会社 執行役員 技術本部 本部長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	③
石川 英治	株式会社ベネッセインフォシエル テクノロジー推進室 室長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	③
伊藤 宏一郎	専門学校 岡山情報ビジネス学院 教務課長補佐	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	
藤井 克俊	専門学校 岡山情報ビジネス学院 情報スペシャリスト学科 学科長代理	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。  
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(例年の開催時期は、9月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年9月29日 16:00～17:30

第2回 令和4年1月26日 16:00～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

<委員会意見より現在実施中項目>

答えのないところから答えをみつけることはとても大切であり、普段の授業から課題解決型の取り組みを進めてほしい。

国家試験について、基本情報はCBT方式へ移行している。

全国的に合格率が上がっている状況であり、模擬試験の結果によって習熟度を確認し、合格できるレベルまで到達した段階で受験させるなど、工夫することで合格率を上げられるのではないかと。

技術者としての自立も目指してほしい。自分で物事が考えられ、自分で理解し自分の意見が述べられるようになるために、仕組みを知ることが重要である。

<委員会意見より具体的内容検討中項目>

データ構造とアルゴリズムについて学習する際に代数について根本理解をさせる必要がある。プログラマーに必須の数学は、動画教材等を用いて学習させることを検討してみてもどうか。

AIの学習について、サンプルプログラムを用いて、結果が表示できたレベルで終わるのは惜しい。簡単なものでも自分でロジックが組めるようになる事が到達点になるのではないかと。例えばDeepracerを用いるなどもひとつのアイデアではある。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

システム業界で即戦力で活躍できる技術者を育成するために、システム設計に関する実践的な授業内容の改善・工夫のために、システム業界でソフトウェア開発に関する業務コンサル、システム設計、開発、運用監視、Webコンテンツ作成を主要業務に携わっている技術力の高いシステムエンジニアとして活躍している方から、システム設計に対する直接助言や協力が得られる体制をとることが可能な企業様を選定し、講義していただく。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

主に担任教員が実習内容の詳細について連携企業と受入の確認と調整を行う。実習期間中は学科教員が各連携企業を訪問し、学生の状況を確認するとともに、実習担当者と情報交換を行う。実習終了後には、実習担当者による学生の学修成果の評価と、実習日誌などをふまえ、担任教員が成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
キャリア実習	実社会で、即戦力として活躍できる人材を育成することを目的に、1年次後期に企業で実習を行う。授業を通して学んできたことを、理論と実践の相互関係を理解し、基礎的な知識・技術力を身につける。実習内容は、基本的に受入企業様の指示に従い、担当者の方々の指導のもと、実習を行う。	株式会社ソフィア ソルクリエイト株式会社 株式会社ティファナ・ドットコム 株式会社プロビズモ 株式会社はれコーポレーション 株式会社テクノデジタル トリツ機工株式会社 株式会社アルク 等 全34社

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員の資質向上や専門分野の知識向上を目的とし、学内研修・学外研修・自己啓発研修等の年間研修計画を立て、学科教員が受講する。また、研修受講後は、研修報告書の作成と他関係者に対する研修内容の共有を行う。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

主催: 一般社団法人 全国専門学校教育研究会

日程: 令和4年3月1日

参加者: 藤井 克俊

研修名: 数式を使わずに統計学や機械学習の本質を教えるためのティーチングメソッド

昨今の全国的なデータサイエンス教育の拡大の中で、数学的要素の強いデータサイエンスをどうやって理解させるのかが大きな課題となっている。本研修では、数式なしでデータサイエンスを教えるメソッドを紹介いただき、実際に講義を行う中で気づきを参加者同士で共有した。また、データサイエンスの市場環境についても解説いただいた。

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

・主催: デジタルハリウッド株式会社

・日程: 令和4年1月20日

・参加者: 伊藤 宏一郎、藤井克俊、岡本 和也、宇野光司

・研修名: アダプティブ・ラーニング×ルーブリック評価に基づく「学習成果の可視化」の実践と効果

デジタルハリウッド株式会社はマルチメディアコンテンツ系予備校および大学を運営する企業である。

昨今急速に進んだオンライン教育の知識と活用、および学習成果の可視化について、その方法論と効果測定手法について解説いただいた。また、オンライン授業導入による成長の実践事例について紹介いただいた。

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

・主催: NPO法人/オープンテクノロジー技術者認定機関 LPI-Japan

・日程: 令和4年度7月12日

・参加者: 伊藤 宏一郎

・研修名: HTML5(CSS3) レベル1試験 技術解説無料セミナー

NPO法人/オープンテクノロジー技術者認定機関 LPI-Japanは、日本でのLinuxの技術力認定試験の普及とITプロフェッショナルの育成のため2000年7月に設立され、現在は対象を広げOSSのデータベースソフトウェア、クラウドソフトウェアであるCloudStackやOpenStack、更にはHTML5のプロフェッショナルのための認定試験を実施するNPO法人である。本研修では、HTML5プロフェッショナル認定資格の出題範囲の主題ごとに技術解説を行っていくセミナーである。本団体は本学科の教育課程編成委員に加盟しており、セミナー等に参加し資格の取得や教師のレベルアップを図っている。

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

主催: 株式会社 進研アド

日程: 令和4年8月下旬～9月予定

参加者: 伊藤 宏一郎、岡本 和也、宇野 光司、藤井 克俊

研修名: 「基礎力リサーチ」フィードバック教師研修

株式会社 進研アドは、入学者に対して、入学時及び進級時に学びの定着化を図ったり、退学予防に役立てたりすることを目的とした「基礎力リサーチ」を提供していただき、本校と連携をしている。株式会社 進研アドが、「基礎力リサーチ」結果をもとにさまざまな角度から分析した結果を各学科の担任にフィードバックを行い、今後の学生指導に役立てるための研修である。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自己評価の評価結果について、学校関係者として卒業生、保護者とともに企業等による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高める。また、本校の教育方針である「即戦力となる人材育成」「ビジネスマンにふさわしい人格形成」「ニーズに対応したカリキュラム」に基づき、地域社会に貢献できる人材の育成に結び付けるために、関係者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ることを目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の順守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	現在はありません

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

担任制、卒業生の社内での評価などは、良い評価をいただいたので、今後も退学防止などの課題に取り組んでいく。特に、教師の力量による差が、退学、就職などすべてに影響するため、その差を解消できるように教員研修を継続する。また、非常勤教師の採用も行い、学生サービスの充実を図る。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
守井 照久	税理士法人創明コンサルティング・ブレイン 代表社員	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	企業等 委員
早崎 律貴	スマートスケープ株式会社 VX事業部 開発部 部長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	卒業生・ 企業等委員
石崎 公生	株式会社アドボックスフォトグラフィ 代表取締役	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	PTA
山本 涉	医療法人和香会 倉敷スイートホスピタル 運営企画室 室長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	企業等 委員
豊田 東	岡山国際ホテル 総支配人	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	企業等 委員
佐藤 新之助	株式会社イトン イートンちどり保育園 取締役	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	企業等 委員
真鍋 洋志	菅公学生服株式会社 総務戦略本部 本部長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	企業等 委員
山下 秀男	株式会社イケル 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3 月31日 (2年)	企業等 委員
北牧 涼輔	株式会社アールアールジェイ 岡山支店 支店長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	企業等 委員
竹井 一雄	自衛隊香川地方協力本部 東讃地区隊長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日 (2年)	企業等 委員
畑 嘉昭	株式会社 トスコ 常務取締役	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日 (2年)	企業等 委員
芳原 慶真	コーセーエンジニアリング株式会社 総務課長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	企業等 委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL:<https://www.oic-ok.ac.jp>

公表時期:令和4年10月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針やキャリア教育、職業教育をはじめとした教育活動等の状況を提供する。また、それぞれの学科の目標検定や就職実績についても情報を提供し、公的な認可を受けた教育機関として誠実な対応を行い、説明責任を果たす。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	OICの教育方針、心の推進プロジェクト、プライバシーポリシー(個人情報保護法)
(2) 各学科等の教育	目指す業界・職種、目指す資格と資格取得実績、就職実績、カリキュラム
(3) 教職員	教職員数、教員の組織、教員の専門性、教職員の研修
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取り組み支援、企業等との連携による取組・キャリア教育への取組
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育活動・校舎、施設紹介、学校行事、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援への取組状況(スクールカウンセラー)
(7) 学生納付金・修学支援	学納金、独自の奨学金制度・学費支援制度
(8) 学校の財務	財務状況
(9) 学校評価	学校評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL:<https://www.oic-ok.ac.jp>

(工業実務専門課程 情報スペシャリスト学科) 令和4年度 1年生																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			コンピュータ概論Ⅰ	テクノロジー分野（基礎分野）に関する知識の学習。 経済産業省 基本情報処理技術者の午前分野合格レベルの学習。	1前期	44	2	○	△		○		○		
2	○			コンピュータ概論Ⅱ	テクノロジー分野（応用分野）に関する知識の学習。 経済産業省 基本情報処理技術者の午前分野合格レベルの学習。	1前期	43	2	○	△		○		○		
3	○			コンピュータ概論Ⅲ	マネジメント・ストラテジに関する知識の学習。 経済産業省 基本情報処理技術者の午前分野合格レベルの学習。	1前期	43	2	○	△		○		○		
4	○			プログラミングⅠ	JAVA言語の知識学習 (基本文法から、関数)	1前期	60	4	○	△		○		○		
5	○			アルゴリズム概論Ⅰ	プログラムの処理手順の学習。 経済産業省 基本情報処理技術者の午後分野合格レベルの学習。	1前期	60	4	○	△		○		○		
6	○			ビジネスアプリケーション演習	Word, Excel, PowerPointの基本操作と書類作成の方法を学ぶ。	1前期	30	2	△	○		○		○		
7	○			ペン字	硬筆検定3級合格レベルの演習 手書き用履歴書作成のため。	1前期	15	1		○		○		○		
8	○			ビジネス実務Ⅰ	新入社員として必要なマナーの学習。 就職活動における立居振舞、面接指導。	1通年	120	4	○	△		○		○		
9	○			プログラミングⅡ	JAVA SE範囲のオブジェクト指向プログラミングを演習を通して学習する。	1後期	70	4	○	△		○		○		
10	○			情報リテラシー	演習を通じて情報技術の基礎知識について学習する。 経済産業省 基本情報処理技術者の午前分野合格レベルの学習。	1後期	32	2	△	○		○		○		
11	○			情報処理技術者Ⅰ	経済産業省情報処理技術者レベルの学習。 適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	1後期	125	4	△	○		○		○		
12	○			フロントエンドⅠ	HTML5、CSSを使用してWebページの開発を学ぶ。	1後期	50	3	○		△	○		○		
13	○			データベース	データベースの基礎理論やデータベース管理システムの役割・SQLなどの基礎知識を学ぶ。	1後期	40	2	○		△	○		○		
14	○			インフラⅠ	インターネットサーバーとして、企業などで多く採用されているオペレーティングシステムであるLinuxの基礎を学習する。	1後期	50	3	○		△	○		○		
15	○			英会話Ⅰ	グローバル社会を見据え、業務で必要な英語での基礎的な会話法を学習する。	1後期	18	1	○			○		○		
合計						15科目	800時間(40単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	16週

(工業実務専門課程 情報スペシャリスト学科) 令和4年度 2年生															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・学 期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		キャリア実習Ⅰ	実際の現場で実習することにより理論と実践の相互関係を理解し、基礎的な知識・技術力を身につける。	2前期	80	2			○		○			
2	○		情報処理技術者Ⅱ	経済産業省情報処理技術者試験に向けた学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	2前期	81	2	△	○		○		○		
3	○		サーバーサイドⅡ	サーバーサイドⅠで学習したJavaのシステム開発の技術を総動員し、プロジェクト演習を実施する。	2前期	60	4	△	○		○		○		
4	○		フロントエンドⅡ	ブラウザ上でのオブジェクトの操作など、javascriptの基礎知識の学習とプログラミング演習。	2前期	60	4	○		△	○		○		
5	○		開発技術	システム開発におけるドキュメントの作成方法やチーム開発ツールの使用方法を学習する。	2前期	64	4	○		△	○		○		
6	○		インフラⅡ	サーバーの役割や基礎知識の学習、仮想環境を用いたサーバ構築の演習を行う。	2前期	60	4	○		△	○		○		
7	○		プレゼンテーション技法	効果的な発表を行うためのプレゼンテーション技法と、実社会において必要なパワーポイントの技法を習得する。	2前期	30	2	△		○	○		○		
8	○		キャリアプランニング	ニュースや新聞からIT業界の業界動向を調査し、将来目指す業界理解を深める	2通年	20	1	○		△	○		○		
9	○		ビジネス実務Ⅱ	一般常識や適性試験対策学習を継続しながら、エントリーシートや履歴書を完成させ、就職活動の準備を整える。	2通年	140	4	○	△		○		○		
10	○		キャリア実習Ⅱ	実際の現場で実習することにより理論と実践の相互関係を理解し、基礎的な知識・技術力を身につける。	2後期	120	3			○		○			
11	○		情報処理技術者Ⅲ	経済産業省情報処理技術者試験に向けた学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	2後期	93	3	△	○		○		○		
12	○		サーバーサイドⅢ	サーバーサイドⅡで学習したJavaの技術を応用し、サーバレット/JSPを用いたWEBアプリ開発を行う。	2後期	90	4	○		△	○		○		
13	○		PBL	コンテストでの入賞に向け、WEBアプリケーション開発をチームで行う。	2後期	90	3			○	○		○		
14		○	医療事務	医療機関の役割を理解し、簡単な保険請求を学ぶ	2後期	15	1	△	○		○		○		
15		○	ビジネス実務法務	ビジネスに関連する法律の学習を通じて、社会の仕組みや業務におけるリスクを学ぶ	2後期	15	1	○			○		○		

(工業実務専門課程 情報スペシャリスト学科) 令和4年度 2年生															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
								講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択													
16	○		デザイン入門	書類やスライドなど、どの業界に出ても必要となるデータ作成上で必要となるデザインについての基礎的知識を身につけ、実践する	2 後 期	15	1	△	○		○		○		
17	○		HP動画	HPや動画を制作するための基礎的な知識やセンスを身につける。	2 後 期	15	1	△	○		○		○		
18	○		音楽	日本に伝わる四季折々の歌や世界に広がる歌を歌いながら楽器や身体、絵に描く等、表現力を高め感性を豊かにする。	2 後 期	15	1	△	○		○			○	
19	○		RPA実習	作業自動化ツールであるRPA(Robot Process Automation)の構築を題材に、プログラムの思考力を養う	2 後 期	15	1	△	○		○		○		
20	○		Excel・データ分析	Excelを使ったデータの活用、集計、分析方法の基礎知識について学ぶ	2 後 期	15	1	△	○		○		○		
21	○		一般知能	数的推理・判断推理・資料解釈を論理的な思考から、解答する力を答練を通じて身につける	2 後 期	15	1	○			○		○		
22	○		健康管理	人体の仕組みと代表的な病気の予防について理解し、健康管理の基礎を学ぶ。	2 後 期	15	1	○			○		○		
23	○		ロジカルシンキング	グループワークやディスカッションを通じて、論理的思考に用いられるフレームワーク(考え方)を学ぶ。	2 後 期	15	1	△	○		○		○		
24	○		ビジネス英語	ビジネスの場で簡単な英語が話せる力や、メール文章を書く能力を身に付ける。	2 後 期	15	1	○	△		○			○	
25	○		ペン字上級	1年生で学んだ美しい文字を書くことの大切さをより深く理解する。ひらがな、カタカナの成り立ち、漢字基本点画、部首、筆順の解説により、バランスのとれた字形(行書体も含む)を学ぶ。また、筆ペンの使用も学ぶ。	2 後 期	15	1	△	○		○			○	
26	○		応用文章技能	文章を書くための素材を集めるポイントや文章の構成などを講義するとともに、毎回、テーマに即した文章を書くこと(添削あり)を通じて、実践的な文章技能の習得を目指す。	2 後 期	15	1		○		○		○		
27	○		フラワーアレンジメント	ブーケ、ブートニア、ヘッドフラワー、会場装花を製作する。	2 後 期	15	1	△	○		○			○	
28	○		世界事情	グローバル化の時代、将来国内外問わず、外国人とともに仕事することを念頭に、テーマ別国際事情の講義とグループワークやディスカッションを通して、国際的視野を身につける。	2 後 期	15	1		○		○		○		
合計					14科目	1,003時間(41単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	16週

(工業実務専門課程 情報スペシャリスト学科) 令和4年度 3年生															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
								講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択													
1	○		情報処理技術者 Ⅳ	経済産業省情報処理技術者試験の 学習。適宜模擬試験を実施し、実 力の確認と養成を行う。	3 前期	81	2	△	○		○		○		
2	○		Webアプリケー ション開発Ⅱ	Webフレームワークを用いた実践 的なアプリケーション開発手法を 学習する	3 前期	60	4	○		△	○		○		
3	○		AI概論	AIに関する基礎知識と利用用途に ついて学ぶ。	3 前期	39	2	○		△	○		○		
4	○		クラウドコン ピューティング	パブリッククラウドを活用したイン フラ構築及びアプリケーション のデプロイ方法を学習する	3 前期	34	2	○		△	○		○		
5	○		PBL実践	学内の他分野の学科と連携し、各 業界の課題を解決するためのシス テムを開発する総合実習を行う。	3 前期	130	4				○	○	○		
6	○		ビジネスプラン ニング	業界のビジネスモデルの調査及び 、ビジネスモデルの立案方法を 学ぶ。	3 前期	39	2	△	○		○		○		
7	○		ビジネス実務Ⅲ	システムエンジニアとして必要な 業務知識や仕事の進め方を学ぶ	3 通年	142	4	○		△	○		○		
8		○	親学	親としてすべきことを学び、さら に人としての成長を目指し、人間 力を高めるライフデザインを学 ぶ。	3 後期	15	1	○	△		○		○		
9	○		卒業研究Ⅰ	3年間の集大成として総合的なア プリケーションを開発する。企画 から要件定義、基本設計を行う。	3 後期	35	1				○	○	○		
10	○		情報処理技術者 Ⅴ	経済産業省情報処理技術者試験の 学習。適宜模擬試験を実施し、実 力の確認と養成を行う。	3 後期	93	3	△	○		○		○		
11	○		卒業研究Ⅱ	3年間の集大成として総合的なア プリケーションを開発する。詳細 設計から製造、テスト、リリース を行う。	3 後期	163	4				○	○	○		
合計					11科目	831時間(29単位)									
総科目					40科目	総時間 2,634時間									
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
①必修の全科目及び選択必修で選択した科目の成績がC評価以上 ②すべての授業の出席率90%以上 ③サーティファイ 情報処理検定2級、 サーティファイ C言語検定2級、 サーティファイ Java検定2級のうち1つに合格 上記条件を全て満たした学生に対して卒業を認定する								1学年の学期区分				2期			
								1学期の授業期間				16週			